


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 いわき市 】

学校名【 いわき市立勿来第二中学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ &lt; 2021 年 オリンピック・ムーブメント 事業 &gt;</li> <li>  JOCオリンピック教室 2学年 26名</li> <li>・ オリンピック・パラリンピック教室</li> <li>  全校生 77名</li> </ul>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )</li> <li>② 行事名 ( )</li> <li>③ その他 ( )</li> </ul> <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① イベント名 ( )</li> <li>② その他 ( )</li> </ul>
4 目標 (ねらい)	<p>○オリンピック・パラリンピック大会への理解を深め、選手が出場することで得られた体験等を聞くことで諦めない気持ちや努力することの大切さを理解させる。また、多くの国の選手がオリンピック・パラリンピック大会に参加し、スポーツを通して交流することの意義を考えさせる。</p>
5 取組内容	<p>○&lt;2021年オリンピック・ムーブメント事業&gt; JOCオリンピック教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生を対象に、冬季長野オリンピックに出場した、荻原次晴氏をお迎えし運動を行い講話をいただいた。</li> </ul> <p>運動では、モップシューズを履き、リレーを行った。利き足ではない足にモップシューズを履くことで、不便を感じる生徒が多くいたが、次晴氏から、「トップアスリートはあえて苦手なことを重点的に練習する。取り組みを変えることが次へのきっかけとなる。」との話をいただいた。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>講話では、オリンピックバリューの3つの言葉(エクセレンス・</p> </div> </div>

フレンドシップ・リスペクト)について考えた。また、「強い選手と弱い選手との違いは何か」について、「強い選手は弱い選手の気持ちを考えられる人、弱い選手は弱い立場の人の気持ちを考えられない人。強い選手ほど、弱い選手に優しい選手なのではないか。」と教えていただいた。



○第1回オリンピック・パラリンピック教室

全校生を対象に、東京オリンピック・パラリンピック大会前に日本パラサイクリング連盟常任理事権丈泰巳氏をお招きし、パラサイクリング競技について詳しく解説していただいた。生徒たちは、



普段はパラサイクリングについて理解を深めるとともに、この後に開催される東京オリンピック・パラリンピックに対して興味・関心を高めることができました。

○第2回オリンピック・パラリンピック教室

東京オリンピック・パラリンピック大会後に、日本パラサイクリング連盟常任理事権丈泰巳氏と東京パラリンピックに出場した藤田征樹選手をお招きし、障がいを持ちながら、どのように競技と向き合うか、また、東京パラリンピックに参加するまでの過程、そしてオリンピック・パラリンピック大会の意義についての話を聞き、オリンピック・パラリンピックに対する考えを深めることができた。



6 主な成果

○オリンピックバリューの3つの言葉（エクセレンス・フレンドシップ・リスペクト）について具体例をもとに説明してくれたことにより、その内容をより深く理解することができた。  
○オリンピック・パラリンピック大会への興味が高まり、特に、普段見ることのできない、パラサイクリングについて知ることができた。また、障がいに負けることなく、高い目標を掲げ、パラリンピックに出場した選手の話聞いたことで、諦めない気持ちを持つことが大切なことがわかった。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック教室は、東京オリンピック・パラリンピック大会の前と後の2回に分けて実施していただき、第1回目は、大会前にパラサイクル競技について理解を深める講演を行い、第2回目は大会後に新聞、TV等で選手の活躍を知った上で、実際に出場した選手をお招きして行った。2回に分けたことにより、大会前・大会中・大会後と繋がりを感じながら取り組むことができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○実施時期の決定において、オリンピック・パラリンピックの関係者となると調整が難しく、学校行事との兼ね合いなど、日程調整に苦労した。</p> <p>○今回、パラサイクリングに焦点を当てて実施したが、オリンピックと違い、パラリンピック関係の報道が少なく、TVでの放映が少ないことや実際の競技実施期間には2学期が始まっているため、リアルタイムで競技を観戦することができないなど、生徒への周知が難しかった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○今回、東京オリンピック・パラリンピック大会が開催されるにあたり、オリンピック・パラリンピック教育推進校に選ばれたことで、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じることができ、スキーの荻原次晴氏やパラサイクリングの藤田征樹選手から貴重な話を聞くことができた。特に、オリンピックバリューの3つの言葉（エクセレンス・フレンドシップ・リスペクト）や諦めない心の大切さをこれからの学校生活に生かしていきたい。</p>